

宇都宮市
男女共同参画
情報誌

ぱーとなーしっぴ



特集

多様なセクシュアリティ(性と生)LGBT

33

寄稿 宇都宮大学教育学部 准教授 良 香織さん

2016 | Vol.

「性のありかたは多様な性」 みんなが多様な性の一人」



性は人権である

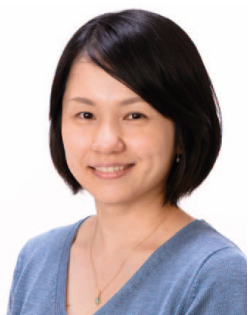
「性」は女性と男性の2つだけ？異性を好きになるのが自然？からだの性に違和感を覚える人はいない？

—答えはすべてノーです。こうした性に関わる思い込みはあらゆる場面に存在しており、様々な生きづらさにつながることは少なくありません。

性のありかたは実に多様です。しかし日本ではテレビ等で「お笑い」として扱われることがまだまだ多く、身近なテーマとして捉えられていないのが現状です。一方で今年5月に開催したG7倉敷教育大臣会合で採択された「倉敷宣言」では「教育における多様性の尊重」の中に多様な性について明記されましたし、学校教育でも様々な取り組みが始まっています。

性のありかたは一人ひとりの生き方に直接的に結びつくテーマです。近年、「LGBT」(※)の人々の割合は7.6%という調査結果もあります(電通、2015年)。大切なのは、数が多いか少ないかということではなく、どのような性のあり方であっても、一人ひとりが大切な存在であることに変わりないということです。

つまり性のありかたは人権に関わるテーマ



Profile [プロフィール]

長 香織さん

・保健学博士
・宇都宮大学
教育学部准教授

保育士養成と教員養成に関わっている。主な研究テーマは学校教育と性(ジェンダー/セクシュアリティ) 主な著書『ハタチまでに知っておきたい性のこと』(共著、大月書店、2014)他

なのです。誰もが性によって生きづらさを感じたりしない社会⇨人権が守られる社会を、私たちはつくっていく必要があります。

性の多様性を知る

最近、新聞やテレビ等で「LGBT」や「性的マイノリティ」「セクシュアルマイノリティ」といった多様な性に関わる言葉を耳にするようになってきました。言葉として聞いたことはあっても、内実をよく知らないために、「笑い」や「排除」の対象とすることも多いのです。性は多様であることを知っておくことはとても大切です。

ここでは性を「この性の性」誰を好きになるか「からだの性」の3つの側面から考えてみましょう。

○この性の性(性別自認、性自認)

この性の性とは、自分が自分の性をどう捉えているかということです。からだの性とこの性の性が一致している場合(シスジェンダー)もあれば、からだの性とこの性の性に違和感を覚える場合(トランスジェンダー)があります。トランスジェンダーの人の中には、自分の性別

に強い違和感があつて、性器の削除・形成を求めることもありトランスセクシュアルと言います。この疾患名が性同一性障害で最近では性別違和と表現することもあります。

○誰を好きになるか(性指向)

この性の性を軸に、好きになる相手が同性に向く場合は、同性愛といい、女性同士はレズビアン、男性同士はゲイ。人を好きになる時に性別はあまり重要なポイントでない(男性、女性両方に向く場合)は両性愛(バイセクシュアル)といえます。異性に向く場合は、異性愛ヘテロセクシュアル)です。誰にも向かない場合は、無性愛(アセクシュアル)です。

○からだの性(身体的性)

からだの性は性染色体や内性器・外性器等で判別されます。染色体が分化しきれていなかったり、性器が判別しがたい場合があり、「DSD」といいます(多様な性の説明で取り上げてはしくないと人もたくさんいます)。

性はグラデーション

性は一生の中でゆらぐこともありますし、決めたくない人もいますから、この3つの側面の組み合わせは無限です。また、人のセクシュアリティを決めつけたり、勝手にその人のセクシュアリティを話すのは人権侵害です。

人間の性はグラデーションです。なのになぜ、からだと心に違和感がなく、異性愛の人が「普通」と考えられているのでしょうか。

多様なセクシュアリティの人がニーズを言えることは大切です。そのためにも、自分を含む、みんなが多様な性の一人であることを知って、多様な人がいることを前提にした社会づくりが重要ですね。

「多様な生き方」

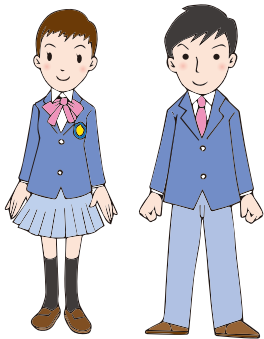
宇都宮市にお住まいの
LGBTの方に
お話を伺いました。

さゆきさん

- 年代 50歳代
- 職業 社会福祉士
- セクシュアリティ MtF(※2)

——どのような子どもでしたか？

小さい頃からおとなしい子で、友達とのグループと一緒にいるのですが、中に入るのではなく、友達の後からくっついて歩くみたいな感じでした。小学3年生位までは、女の子とばかり遊んでいたせいかイジメにもあいました。中学生になると制服を着用しなければならなくなり、その時、初めて自分の性に違和感を覚えました。中学3年の時には、はっきり自分の性を認識し、女性として生きたいと思いました。高校は共学校に進みました。女子の制服に憧れましたが、願いは叶わず、ずいぶん悩みました。



——どのような仕事をしていますか？

文系の短大を卒業し、就職したのですが、女性として生きたいのに、男性として振る舞わなければならないことが苦痛で精神的にもま

いつてしまい、3年で辞めてしまいました。

その頃は職場でのイジメや偏見もあり、本当につらかったです。その後、社会福祉士の資格を取得し、現在の職場に採用されました。

採用の面接では、正直に自分の性について話したところ、面接官が理解のある方で、その場で採用されました。自分の望む性で採用され、とても嬉しかったです。仕事は忙しいですが、とても楽しくやりがいがあります。これからもっと勉強して、さらなる上の資格を取りたいと考えています。

——どのように暮らしていますか？

家族は、父が早くに亡くなり、母親と弟だけです。カミングアウト(※3)して以来、家族からは受け入れてもらえず、一人暮らしです。母親からは、「縁を切る」とまで言われてしまいました。最近になって年に1、2回会えるようになりました。しかし、弟とは今でも音信不通です。弟とはいつか会って話すことができる時が来る、といいなと思います。



——どんな社会になるといいですか？

自分が若い頃は体を心に適合させる性別適合手術は禁止されており、体と心の不一致に苦しみ、毎日が地獄でした。現在は、法律で認められており、もっと早く法律が整備されていたらこんなに苦しまなくてもすんだのにと強く思います。法の整備と合わせて社会の理解も進んできていると思いますが、日本では同性婚は認められていませんし、性別の記載が必要な書類はまだありません。LGBTの人たちが、性により苦しまなくてすむ社会になるよう国には法の改正や意識啓発を先導して行ってほしい、そうでない人たちと同じように暮らせる社会になってほしいです。

——将来の夢を教えてください

将来は、非常勤でもいいので教師になりたいといいなと思っています。子どもの頃は「もっと男の子らしくなさい」「女の子とばかり遊ぶな！」と理解のない先生からこんな風に言われて、「なんでなんだろう？」と、よくわからずにモヤモヤしていました。私と同じ悩みを抱える子ども達も力になって、「大丈夫だよ！」って支えてあげたい。一人ぐらいそういう教師がいてもいいでしょ(笑)

※1 LGBT・Lは女性同性愛者(レズビアン)、

Gは男性同性愛者(ゲイ)、Bは両性愛者(バイセクシュアル)、Tは性同一性障害を含む性別越境者など(トランスジェンダー)のそれぞれの頭文字を組合せた言葉。

※2 MtF(Male to Female)の略で、身体的には

男性であるが心が女性であること。

※3 カミングアウト:これまで公にしていなかった自らの性的指向等を表明すること。

なっちゃん

- 年代 20歳代
- 職業 会社員
- セクシュアリティ
バイセクシュアル
(※1)

——どのような子どもでしたか？

初恋は中学1年の時、同じ部活の可愛い女の子でした。その頃は、同性を好きになることを普通だと思っていたので、彼女には普通に告白しましたが振られました。彼女から「普通じゃない。」と諭された。失恋のショックと私は普通じゃないというダブルショックを受けました。この経験から高校ではノンケ(※2)を装っていましたが、そのせいでうつ病になり通院していました。大学1年の時、初めて女友達にカミングアウトしました。きっかけは留学生の男性から「僕はゲイだよ。」とあつげらかんと言われたことです。その時、溜まっていた思いを彼に話したことでカミングアウトする決意ができました。友達への反応は「やつと言ってくれたね。」という感じで、ホッと嬉しかったことを覚えています。その時の友達は今も交流があり、私を理解し受け入れてくれる大切な友達です。また、LGBTに理解のある恩師と出会えたことも、私の人生にとって大きなものです。自分の全てをさらけ出せる恩師の存在があるからこそ、今の私があると思っています。

——どのような仕事をしていますか？

現在、メーカーの営業職として全国を飛び回っています。とても忙しいですがやりがいがあります。会社からは、業務管理上、

私の結婚や出産の予定を聞かれます。でも、私は結婚や出産にはまったく興味がありません。どこに行っても彼氏や結婚の話などについて聞かれ、正直、ウンザリしてしまいます。そんなことより、私がどんなことを考え、何を思っているかということに興味を持ってほしいです。



——どのようになり喜んでいますか？

ずっと実家暮らしでしたが最近一人暮らしを始めました。学生時代からレインボーパール(※3)やLGBTの集会などに参加していたので、親は私がそういうことに興味があることは知っていましたが、当事者だと気付いているかどうかはわかりません。そんな詮索されるような空気に耐えられなくなると、恩師から、「一人でも暮らしていける空間の確保が必要だよ。」とアドバイスを受けたこともあり家を出ました。親には「自立したい。」という理由で説明しました。

——どんな社会になるといいですか？

LGBTの人たちにとって生きることはいびりです。学校、職場、地域社会……。あらゆる壁となつて立ちふさがります。その壁を乗り越えられずに精神疾患になる人、そして自殺という最悪の結末を迎える人も少なくありません。LGBTの人々も、そうでない人も、すべての人が「ありのままの自分」でいられる生きやすい社会になってほしいです。そのためには、行政のサポートも欠かせません。

——将来の夢を教えてください

私には信頼できる恩師や友達など、支えてくれる人達がいます。そのおかげで今まで何とか壁を乗り越えて生きてこれ来ました。身近に支えてくれる人がおらず、誰にも悩みを相談できず、一人で悩み命を絶つていく人達がいます。そういうつらく悲しい思いをしている人を一人でも減らしたい。そのために、将来はLGBTを支援する活動ができればいいなと考えています。そのためにも、まずは私自身が前向きに「生きて」いきたいと思っています。

HIROさん

- 年代 20歳代
- 職業 学生
- セクシュアリティ
ゲイ(※4)

——どのような子どもでしたか？

男3人兄弟の真ん中の子でしたが、女の子っぽい子で女の子と遊ぶことが多く、家の中でおままごとやお絵かきをするのが好きな子どもでした。女の子とばかり遊んでいたせいかイジメにもありました。そのため、小学3年生の時、バスケット部に入学し髪の毛も切り、女の子の友達とも遊ばないようにしました。何より、男らしいっていわれたくて頑張っていました。

そのようなこともあって、中学・高校と女性とお付き合いをしていたのですが、彼女というより大親友とお付き合いをしていったという感じでしたね。大学生になって初めて男性と付き合いたいと思うよう

になりました。そのきっかけは自由な時間が増え、男性と出会うきっかけができたことです。男性が好きっていうことを自覚するのに時間がかかったのは小学生の頃にイジメにあったのもありますが、自分の気持ちを抑圧し、女性が好きて思い込んだり、周りの皆と同じでありたいと思っていたからだと思います。



——カミングアウトしましたか？

友達にカミングアウトする転機となったのは、カナダのバンクーバーに1年間留学したことです。カナダではLGBTは普通なので居心地がよくそれに慣れてしまい、日本に戻った時に以前と同じように生きづらくする必要はないかなと思いました。

でも、友達にカミングアウトするのに切り出すまで5時間かかりました。でもやってみると普通に受け入れてくれて、それまで以上に仲良くなることができました。カミングアウトで友達は減ると思っていたのですが、友達が増えたことには驚きました。それは自分に素直になれたことで友達にも素直になれたからだと思います。カミングアウトして本当によかったと思います。

——どのようにならなっていますか？

地元は県外なので、大学に通うため一人暮らしをしています。カミングアウトする前は、週5日は宇都宮、残りは東京で自分らしく生きる二重生活でした。しかし、カナダに行き、友達にカミングアウトすることができたので、今は一人の人間として生きている実感があります。

しかし、家族にカミングアウトはしていません。両親との関係も良好で、今の段階ではする必要はないと考えています。両親とは恋愛に関する踏み込んだ話をしないので、もし聞かれたら苦しい思いをしようね。

——どんな社会になるといいですか？

一言の心遣いがあるといいなと思います。例えば「彼女いるの？」ではなく、「好きな人いるの？」とか性を特定しない聞き方だと皆答えやすいと思います。LGBTの人に限らず誰にも話づらいことがあると思います。そういう他人を思いやる心遣いが大切だと思いますし、そういうことが当たり前前に考えられる社会になるといいなと思います。

——将来の夢を教えてください

就職先はアパレル関係なので、服を通して自分らしさを表現できる社会にしたいなと思っています。また、自分の心や体の性の違いで悩んでいる子の手助けになるような存在になれるといいですね。

LGBTに関するオススメ書籍

『いろいろな性、いろいろな生きかた』

『いろいろな性と向きあう、35人のインタビュー』(全3巻)
監修 渡辺大輔



第1巻「いろいろな性ってなんだろう?」、第2巻「だれもが楽しくすごせる学校」、第3巻「ありのままでいられる社会」を通して多様な性のありようがわかりやすく説明されている。また、当事者・支援者等総勢35名によるインタビューも紹介。

『LGBTってなんだろう?』

著者 薬師実芳/笹原千奈未
古堂達也/小川奈津己



LGBTについて詳しく記載しており、当事者の学生の声も収録。子どもに接する大人に読んでほしい書籍。

- ※1 バイセクシュアル・異性も同性も恋愛の対象になること。
- ※2 ノンケ・異性愛者のこと。
- ※3 レインボーパレード・プライドパレードのこと。LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ(性的少数者)が、差別や偏見にさらされることなく、より自分らしく、前向きに生きていくことができる社会の実現を目指すために行うパレードのこと。
- ※4 ゲイ・男性同性愛者のこと。

「理解と支援」

宇都宮市内の
LGBT支援団体に
お話を伺いました。

S-PEC

(エス・ペック)
(sexuality peace equality communityの略)

LGBT等性的
マイノリティをもつ当事者たちと
その家族と友人による、
すべての人にとって
よりよい社会を目指す
非営利団体

—なぜ、S-PECを作ったのですか？

息子はFtM※1だったんですね。そのことに気づいたときは、何をどうしたらいいのかわからず、突きつけられた現実と子どもの言動に右往左往して心落ち着かない日々でした。

当時県内にはLGBTを支援してくれる団体がなく県外の団体に参加したことで、子どもの状況を理解し、これからのことを少しずつ考えられるようになり、何より不安が小さくなりました。

生きることを諦めようとした息子の力になってくれたことへの感謝の思いを胸に今度は私たちが誰かの力になりたいと、仲間たちとS-PECを作りました。

—どのような活動をしていますか？

主な活動は年一回の講演会、当事者やパートナー、家族のための交流会、相談事業などです。

LGBTの人たちや家族が抱えている不安・悩み・辛さは様々でとても深刻なケースも多く簡単に解決できません。そのような中で、私たちは彼らに寄り添い、一瞬でも一緒に未来を描くことを大切にしています。

なぜなら、未来を描くことは「生きる」ことに繋がるからです。生きることを諦めず、前に進んでほしい。

そのために、「寄り添う」ことを支援の柱として日々活動を続けています。

—どのような社会になるといいですか？

「自分の周りにはLGBTはいない。出会っていない。」という話を度々耳にしますが、民間の調査によると13人に1人がLGBTというデータがあり、左利きの人と同じ位いるといわれています。

日本ではまだまだ異性愛が普通で世の中は女と男しかいないという社会理念があり、またこれにはとても強い縛りがあるためLGBTの人たちのほとんどは本当の自分の姿を話すことができず、隠して生活しています。

このため、LGBTの人たちは自分自身のセクシュアリティを自覚した時から、古くからの社会通念や周囲の人たちの不理解により、社会から様々な目に見えない暴力を受けているといっても過言ではありません。

セクシュアリティの問題を解決するには個人の理解や配慮も必要ですが、セクシュアリティを人権と捉え、医療・学校・職場・法律といった社会のシステムが変わることも大切です。誰かがキツさを感じたり、何かを強いられる社会はLGBTの人もそうでない人にとっても生きづらさを感じます。「すべての人が真に生きやすい社会」になることが、セクシュアリティの様々な問題を解決できる術だと考えています。

—今後の活動について教えてください

LGBTへの理解も少しずつですが、進んできたように思えます。今後も「継続は力なり」を信じ、LGBTをとりまく雰囲気をもっと変わっていきけるよう目指していきたいです。そして、S-PECではいつでも助けてと言え、助けての声を受け止めることで自分らしく生きる一歩とするための場所でありたいです。



宇都宮大学
セクシュアル
マイノリティサークル
にじみや

セクシュアルマイノリティの
宇大生の居場所として
設立したサークル

—団体設立の経緯を教えてください

大学入学当初、自分のようなセクシュアルマイノリティは学内にはいないと考えており、人には言いづらいものを抱えている孤立感を感じてはいましたが、私にとって耐えられないものではありませんでした。しかし、大学生活に慣れてくると、LGBTの発信活動をする東京の学生や当事者である学友と出会い、私だけでなく同じように孤立感を抱える学生がいるということを知りました。そこで、学内にある一般のサークルや集団だけでは、当事者の心が満たされにくいため、当事者の居場所が必要だと考え「にじみや」を作りました。

—どのような活動をしていますか？—

サークルの基本的な目的は、当事者の居場所となることです。そのために、みんなが楽しめる有益となるような活動をしています。具体的には、毎週集まり関連テーマについて話し合ったり、食事に行ったりしています。また、支援団体やLGBTに関する情報の交換や関東近郊で開催されるイベントにも参加者を募って参加しています。自分のセクシュアリティを謳歌している人達と触れ合うことで、メンバーはとてもいい刺激を受けたと思います。また、善長は情報の発信は行わないのですが、先日同性婚裁判をテーマにした映画の上映会の開催に試験的に挑戦しました。

—どのような社会になるといいですか？—

セクシュアルマイノリティは社会の中で少しずつ認識されるようになりませんが、まだまだ無いものとされていると思います。例えば、恋愛するのは当たり前で、その対象は異性であるという前提で会話が進んだり、就活で戸籍上の性別とは異なるスーツを着て面接に行った学生が、セクハラまがいの性に関する詰問を受けたりと、社会の不理解や偏見の目にさらされています。

私たちはセクシュアルマイノリティではありませんが、それは個人を構築する一つの要素です。LGBTという言葉を通して私たちを見るのではなく、日々を共にするありふれた人間であることを知ってもらいたいです。

—当事者へ一言—

落ち込んでしまうと、セクシュアルマイノリティは自分だけなんじゃないかと

孤独感を感じると思います。しかし、私たちは好運の持ち主です。得体の知れないものではなく、LGBTという言葉とともに存在の認識が広まり、ストレートアライ(※2)が名乗り出てくれて、全国各地に集うことができる場所ができてきた時代を生きているのですから。少しの勇気と行動で、必ず安心できる場所が見つかります。

※1 Ft M:Female to Maleの略で、身体的には女性であるが心が男性であること。

※2 ストレートアライ:男女同権やLGBTなどのような支援を行う人のこと。

最後に、相談窓口等を紹介します。一人で悩まずに、困った時は電話で相談したり、インターネットのホームページを訪れてみてください。あなたは一人ではありません。

相談窓口等

〇よりそいホットライン

電話:0120-279-338

※性別、同性愛に関する相談は「4」をプッシュ

〇NHKオンライン「虹色-LGBT特設サイト」

<http://www.nhk.or.jp/heart-net/lgbt/index.html>

〇ハートをつなごう学校

LGBTフレンズのハートをつなぐ、ひらく、育てる

<http://heartschool.jp/>

★「好きな人」と一緒にいるということ★

現在、日本においては、同性カップルの結婚は認められていません。しかし最近では、東京都渋谷区での「結婚に相当する関係」と認める条例の制定や、その他いくつかの自治体でも、パートナーとして証明する制度や宣誓を行うなど、同性婚への意識は高まりつつあります。皆さんの心の中に思い描く「結婚のカタチ」とは、どのようなものでしょうか？異性が好きな人も、同性が好きな人も、自分の「好きな人」と一緒にあって、誰もが幸せな家庭を築けるようになると素敵ですよ！そのためには、パートナーの将来や仕事、結婚、子育て、自分自身がどうしたいのか、どうなりたいのかなど、これからのライフプランについて、この機会に考えてみませんか？



ぱーとなーしゅぷ

Vol.33 [2016年9月]



宇都宮市 市民まちづくり部
男女共同参画課
男女共同参画推進センター

住所: 〒320-0845 宇都宮市明保野町7番1号
電話: 028 (636) 4075 FAX: 028 (636) 4079
E-mail: u18100201@city.utsunomiya.tochigi.jp

Sunshine

輝く女性 Vol. 5

栃木県名誉農業士
御子貝 荒江さん
Mikogai Arae

本市では、男女共同参画社会に向けて、様々な分野で女性のチャレンジを応援しています。今回は、栃木県女性農業士会会長として地域農業の振興と農村社会における男女共同参画社会作りに貢献した、御子貝荒江さんから、元気なメッセージをお届けします！

Q1「アグリランドシティショップ(※)」を始めたきっかけは何ですか？

A 農村の女性たちは、あまり表に立つイメージがないと思いますが、優秀な方がたくさんいます。そんな女性たちに、自分で作った農作物に自ら値段を付けて、売ることの喜びを知ってもらい、もっと農業を活性化したいと思って、この直売所を立ち上げました。

Q2今までで大変だった事・良かった事を教えてください

A 地域農業へ女性が入ることに苦労しました。重いものを運ぶ力もなく流通も分かっていない女性に何ができる？と言われたこともあり。しかしその悔しさがバネになり、頑張ることができました。数年かけて直売所も地域に広がり、「地産地消」が周囲にも根付いてきたのだと感じた時は、本当に嬉しかったです。

Q3女性が地域や職場、家庭で輝くために大切だと思うことは何ですか？

A 家族との連絡や報告を怠らないことです。特に農村の女性は、いつも家にいると思われているので、何も言わずに出かけると、周囲が困ることもあります。コミュニケーションをきちんと取ることは、家族に自分の活動を理解してもらおうきっかけになりますし、女性自らそういう努力をすることで、仕事にも家庭にも責任を持った行動が取れるようになると思います。

Q4最後に、色々なことにチャレンジする女性に一言！

A まずは前を向いて、一歩踏み出すことだと思います。次に、自分も頑張って、たくさん勉強してほしいです。努力すればするほど色々なことが身に付きまますし、そこから生まれる出会いや仲間は、本当に大切なものになります！



▲アグリランドシティショップ定例会の様子

前を向いて一歩踏み出すことが大切です。

Profile 【プロフィール】

- 昭和49年～ 就農(果樹・水稲経営)
- 平成3年
市内デパートに、農産物や農産加工品を直接販売する常設店「アグリランドシティショップ」をオープンさせる
- 平成11年
栃木県女性農業士第1号として認定される
- 平成27年
男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞
- 平成28年
宇都宮市 市政功労表彰受賞
その他、農村女性組織の育成や、男女共同参画の推進など、数多くの功績を残している



▲宇都宮市市政功労表彰式の様子

女性農業士のリーダーとして、男性の多い農業分野で、女性が活躍するために様々なことを考え、活動を起こした御子貝さん、輝いています！
これからも、たくさんの女性に技術を伝承し、更なるチャレンジを進めてください！ありがとうございました！



※アグリランドシティショップ…市内のデパートに、農産物などを直接販売する常設店